

- those in hard tissue following orthognathic surgery in patients showing mandibular prognathism with facial asymmetry. 12th Japan-Russia medical exchange international symposium, Young Researchers Award:Pof.Valery V. Ivanov, 2005.
- 2) 山崎幸一, 寺田員人, 齋藤 功: 最近のトピックス - 顔面非対称を伴う骨格性下顎前突症患者における顎矯正手術前後の三次元形態分析 - . 新潟歯学会雑誌, 35 (2): 223-225, 2005.
 - 3) 山田一尋: 矯正臨床における変形性関節症 - 顎関節病態と顎運動に注目して - . 松本歯科大学大学院セミナー, 塩尻, 2005年2月27日.
 - 4) 毛利 環: 「スウェーデン・マルメ大学におけるフルPBL 歯学教育の概要とその背景」松本歯科大学歯学部FD講演会, 塩尻, 2005年2月24日.
 - 5) 田中みか子, 渡邊直子, 江尻貞一: エストロゲン欠乏による歯槽骨骨梁構造および固有歯槽骨の脆弱化に関する基礎的検討, 平成17年度日本骨粗鬆症学会研究奨励賞, 2005.
 - 6) Stegaroiu R, Watanabe N, Tanaka M, Ejiri S, Nomura S, Miyakawa O: Stress around a dental implant in a model that simulates bone to the trabecular level. 第113回日本補綴歯科学会学術大会, デンツブライ賞, 2005.
 - 7) Kurose M, Yamamura K, Noguchi M, Inoue M, Ohtaki S, Yamada Y: Modulation of jaw reflexes induced by noxious stimulation to the muscle in anesthetized rats. *Brain Res*, 1041: 72-86, 2005.
 - 8) Fukushima S, Shingai T, Takahashi Y, Taguchi Y, Noda T, Yamada Y: Genesis of the decrement of intraluminal pressure in the UES during swallowing in rabbits. *Brain Res*, 1044: 122-126, 2005.
 - 9) Shimomura J, Tanabe Y, Taguchi Y, Shimooka S, Noda T: Anterior crossbite in the primary dentition: proposal for a new analytical method in children. *Odontology*, 93(1): 56-60, 2005.
 - 10) Noguchi M, Kurose M, Yamamura K, Inoue M, Taguchi Y, Sessle BJ, Yamada Y: Unilateral application of an inflammatory irritant to the rat temporomandibular joint region produces bilateral modulation of the jaw-opening reflex. *Brain Res Bull*, 67(3): 182-188, 2005.
 - 11) Caglar E, Larsson E, Andersson EM, Hauge MS, Ogaard B, Bishara S, Warren J, Noda T, Dolci GS: Feeding, Artificial Sucking Habits, and Malocclusions in 3-year-old Girls in Different Regions of the world. *J Dent Child*, 72(1):25-30, 2005.
 - 12) Yagi K, Matsuyama J, Mitomi T, Taguchi Y, Noda T: Changes in the mouthful weights of familiar foods with age of five years, eight years and adults. *Ped Dent J*, 16(1): 17-22, 2006.
 - 13) Noda T, Takagi M, Hayashi-Sakai S, Taguchi Y: Eruption disturbances in Japanese children and adolescents. *Ped Dent J*, 16(1): 50-56, 2006.
 - 14) Hayashi-Sakai S, Sakai J, Sakamoto M, Kouda, F, Noda T. : The gradient of microhardness in cross-sectioned sound primary molars. *J JSEM*, 6(1): 13-18, 2006.
 - 15) Kijima H, Shingai T, Takahashi Y, Kajii Y, Fukushima S, Taguchi Y, Noda T, Yamada Y: Nitric oxide modulates elicitation of reflex swallowing from the pharynx in rats. *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*, 2006, in press.
 - 16) 小林千里, 福島伸一, 田口 洋, 野田 忠: 復元学校給食による咀嚼実験 - 副食の違いによる咀嚼への

小児歯科学分野

【論文】

- 1) Tomizawa M, Otsuka Y, Noda T: Clinical observations of odontomas in Japanese children: 39 cases including one recurrent case. *Int J Paediatr Dent*, 15: 37-43, 2005.
- 2) Taguchi Y, Kobayashi H, Noda T: A diagnostic proposal to support early treatment of ectopically erupting maxillary canines. *Ped Dent J*, 15: 52-57, 2005.
- 3) Otsuka Y, Matsuyama J, Iwano F, Tomizawa M, Noda T: Chronic benign neutropenia diagnosed due to severe stomatitis: a case report. *Ped Dent J*, 15: 134-138, 2005.
- 4) Ohshima H, Nakasone N, Hashimoto E, Sakai H, Nakakura-Ohshima K, Harada H.: The eternal tooth germ is formed at the apical end of continuously growing teeth. *Arch Oral Biol*, 50 : 153-157, 2005.
- 5) Mitomi T, Tomizawa M, Noda T: Tooth development included in the multifocal jaw lesions of Langerhans cell histiocytosis: a case report. *Int*

影響 - .小児歯誌, 43 (3):389-399, 2005.

- 17) 井上美津子, 浅里 仁, 池田訓子, 小林聡美, 佐々龍二, 高木裕三, 朝田芳信, 大嶋 隆, 小口春久, 田中光郎, 前田隆秀, 宮沢裕夫, 薬師寺仁, 渡部 茂, 真柳秀昭, 鈴木康生, 下岡正八, 野田 忠, 渋井尚武, 進士久明, 田村康夫, 土屋友幸, 大東道治, 香西克之, 西野瑞穂, 木村光孝, 本川 涉, 藤原 卓, 山崎要一, 吉田昊哲, 丸山進一郎, 嘉ノ海龍三, 品川光春: 小児に対する歯科用局所麻酔剤の安全性に関する臨床的研究, 小児歯誌, 43 (5):561-570, 2005.
- 18) 富沢美恵子, 佐野富子, 大久保総一郎: ニフェピリンによる歯肉増殖症. 小児高血圧研究会誌, 3 (1): 54-57, 2005.
- 19) 黒瀬雅之, 山村健介, 野口真紀子, 山田好秋: 顎口腔領域の深部痛による顎反射の変調. 新潟歯学会誌, 35 (2): 221-222, 2005.

【著書】

- 1) 田口 洋: 『食べる』の仕組み(山田好秋, 鈴木敦士編). ブックレット新潟大学41 新潟発『食べる』, 8-13 頁, 新潟日報事業社, 新潟, 2005.
- 2) 大島邦子: いつ, どこで, 誰と, 何を, どんな風に食べる? - あなたの3×365×80回の『食べる』 - (山田好秋, 鈴木敦士編). ブックレット新潟大学41 新潟発『食べる』20-25 頁, 新潟日報事業社, 新潟, 2005.
- 3) 野田 忠, 福島伸一: 30回かめますか?(山田好秋, 鈴木敦士編). ブックレット新潟大学41 新潟発『食べる』, 50-53 頁, 新潟日報事業社, 新潟, 2005.
- 4) 野田 忠: 『食べる』のネタは尽きない(山田好秋, 鈴木敦士編). ブックレット新潟大学41 新潟発『食べる』, 70 頁, 新潟日報事業社, 新潟, 2005.

【商業誌・その他】

- 1) Matsuyama J, Sato T, Washio J, Mayanagi G, Ito Y, Abiko Y, Hashimoto K, Miyasawa-Hori H, Nakajo K, Kato K, Takahashi N: PCR for detection of mutans streptococci in human dental plaque. International Congress Series, 1284: 158-162, 2005.
- 2) 野田 忠: 歯科治療に対する小児患者の反応と対応. 小児歯科臨床, 10 (4): 63-70, 2005.
- 3) 野田 忠: 新潟発オピニオン「食べる」土台づくりサポート. 新潟日報朝刊, 2005年5月7日.
- 4) 田口 洋: 上顎犬歯の萌出障害. 日本小児歯科学会北日本地方会ニュース, 21: 3-6, 2005.
- 5) 木島 寛, 真貝富夫: 脳幹部での嚥下の情報伝達機構: NMDA-NO 経路を中心として. 細胞, 38 (3): 10-13, 2006.

6) 野田 忠: 新潟発『食べる』. Niigata University Campus Magazine, 160: 6, 2006.

7) 野田 忠: 学生さんに引っ張られて教育褒賞. FD ニュース, 15: 4-5, 2006.

【研究成果報告書】

- 1) 野田 忠, 山田好秋, 田口 洋, 小林博昭, 福島伸一: 小児期の摂食・嚥下障害に関する基礎的研究: 摂食嚥下機能に影響する因子は何か. 平成17-18年度科学研究費(日本学術振興会)補助金実績報告書, 基盤研究(B)課題番号17390550, 2006年.
- 2) 田口 洋, 野田 忠, 真貝富夫, 小林博昭: 肥満・糖尿病や嚥下障害に関する食欲調節因子・神経伝達物質を用いた電気生理学的研究. 平成16-17年度科学研究費(日本学術振興会)補助金実績報告書, 基盤研究(C)課題番号16592043, 2006年.
- 3) 松山順子, 富沢美恵子, 佐藤拓一, 高橋信博, 野田忠: 小児の成長発育に伴う口腔細菌叢の変動に関する研究. 平成17年度科学研究費補助金(日本学術振興会)実績報告書, 基盤研究(C)課題番号14571944, 2006年.
- 4) 高橋信博, 真柳秀昭, 野田 忠, 畑 眞二, 佐藤拓一, 松山順子, 中條和子: DNAチップを用いた口腔微生物叢プロファイリングによる小児の口腔疾患リスク評価. 平成17年度科学研究費補助金(日本学術振興会)実績報告書, 基盤研究(B)課題番号16390601, 2006年.
- 5) 佐藤拓一, 島内英俊, 高橋信博, 八巻恵子, 松山順子: 根尖性歯周炎の微生物叢の網羅的定量的プロファイリング. 平成17年度科学研究費補助金(日本学術振興会)実績報告書, 基盤研究(C)課題番号17591985, 2006年.
- 6) 佐野富子: 唾液アミラーゼ活性を用いた小児ストレス定量化の臨床応用. 平成15-17年度科学研究費(日本学術振興会)補助金実績報告書, 基盤研究(C)課題番号15592160, 2006年.
- 7) 佐野富子: 唾液アミラーゼ活性を用いた歯科治療時ストレスの定量化. 平成17年度新潟大学プロジェクト推進経費(若手研究者奨励研究), 研究成果報告書. 2006年.
- 8) 渡邊淳一: OPG 遺伝子欠損マウスの歯牙再植実験による歯髄・歯周組織治癒過程に関する研究. 平成17-18年度科学研究費(文部科学省)補助金実績報告書, 若手研究(B)課題番号17791515, 研究成果報告書. 2006年.
- 9) 河野承子: 歯牙組織における上皮性ナトリウムイオンチャンネル(ENaC)の発現と意義. 平成17年度新潟大学プロジェクト推進経費(若手研究者奨励

研究), 研究成果報告書 . 2006 年 .

- 10) 河野承子: 歯の形態形成におけるステロイド受容体の役割 - ステロイド療法の歯への作用機序解明 - 平成 17-18 年度科学研究費 (文部科学省) 補助金実績報告書, 若手研究 (B) 課題番号 17791518, 研究成果報告書 . 2006 年 .
- 11) 飯澤二葉子: 歯根膜線維芽細胞における GDF-5 の特異的機能とシグナル伝達機構の解明 - 平成 17-18 年度科学研究費 (文部科学省) 補助金実績報告書, 若手研究 (B) 課題番号 17791516, 研究成果報告書 . 2006 年 .

【講演・シンポジウム】

- 1) Noda T: Present status of pediatric dentistry in Japan seen from clinical statistics for 25 years at Pediatric Dental Clinic of Niigata University Medical and Dental Hospital, The 11th Symposium of the Russia-Japan Medical Exchange, Krasnoyarsk, Russia, Program & Abstracts, p.355, 2005.
- 2) 野田 忠: 萌出障害とその対応について, 教育講座, 第 43 回日本小児歯科学会大会および総会, 仙台, 2005 年 5 月 26-27 日, 小児歯誌, 43 (2), 40-41 頁, 2005 年 .
- 3) 野田 忠: 今, 子どもの口・歯は . . . - 小児歯科は「食べる」の基礎作り - , 平成 17 年度第 44 回新潟県小児保健研究会, 新潟, 2005 年 9 月 2 日 .

【学会発表】

- 1) Kajii Y, Noda T: An investigation on the actual conditions during the initial visit of patients at the Pediatric Dental Clinic of Niigata University Medical and Dental Hospital - In comparison with 1980, 1988, 1996 and 2004 - , The Symposium of the Russia-Japan Medical Exchange, Krasnoyarsk (Russia), 2005. 9. 20-21, Program & Abstract, p.357, 2005.
- 2) Kijima H, Noda T.: Involvement of NMDA-NO pathways in the elicitation of reflex swallowing from the pharynx, The Symposium of the Russia-Japan Medical Exchange, Krasnoyarsk (Russia), 2005. 9. 20-21, Program & Abstract, p. 356-357, 2005.
- 3) Tomizawa M, Kinoshita S, Hoshina H, Matsui H: Congenital epulis and impacted maxillary primary canine. 20th Congress of the International Association of Paediatric Dentistry, Sydney, 10/31-11/5 2005, Int J Paediatr Dent, 15

(Supplement 2): 67, 2005.

- 4) 木島 寛, 真貝富夫, 高橋義弘, 梶井友佳, 福島伸一, 田口 洋, 山田好秋: 咽頭刺激による嚥下反射への NMDA-NO 経路の関与 . 第 82 回日本生理学会大会, 仙台, 2005 年 5 月 19 日, 第 82 回日本生理学会大会プログラム, 147 頁, 2005 年 .
- 5) 八木和子, 松山順子, 三富智恵, 田口 洋: 食物咀嚼時の食塊粒子について - 小児と成人の比較 - . 第 43 回日本小児歯科学会大会および総会, 仙台, 2005 年 5 月 26 日, 小児歯誌, 43 (2), 233 頁, 2005 年 .
- 6) 木島 寛, 梶井友佳, 福島伸一, 田口 洋, 野田 忠: 嚥下反射の神経機構における一酸化窒素 (NO) の関与について . 第 43 回日本小児歯科学会大会および総会, 仙台, 2005 年 5 月 27 日, 小児歯誌, 43 (2), 310 頁, 2005 年 .
- 7) 小林博昭, 木島 寛, 梶井友佳, 川崎勝盛, 福島伸一, 田口 洋: ウサギにおける嚥下誘発性の生後発達について . 第 43 回日本小児歯科学会大会および総会, 仙台, 2005 年 5 月 27 日, 小児歯誌, 43 (2), 313 頁, 2005 年 .
- 8) 木下承子, 杉林篤徳, 田口 洋, 野田 忠: 歯の外傷についてのアンケートによる意識調査 - 第 2 報 前回調査 (2003 年) との比較 - . 第 43 回日本小児歯科学会大会および総会, 仙台, 2005 年 5 月 27 日, 小児歯誌, 43 (2), 322 頁, 2005 年 .
- 9) 田口 洋, 小林博昭, 野田 忠: 上顎第 2 小臼歯の萌出障害 . 第 43 回日本小児歯科学会大会および総会, 仙台, 2005 年 5 月 27 日, 小児歯誌, 43 (2), 338 頁, 2005 年 .
- 10) 松山順子, 三富智恵, 木下承子, 富沢美恵子: 重症心身障害児施設におけるう蝕罹患状態の推移 . 第 43 回日本小児歯科学会大会および総会, 仙台, 2005 年 5 月 26-27 日, 小児歯誌, 43 (2), 345 頁, 2005 .
- 11) 林-坂井幸子, 坂井 淳, 坂本 信, 渡邊淳一, 野田 忠: 健全乳臼歯の横断平面内における硬度分布, 第 43 回日本小児歯科学会大会, 仙台, 2005 年 5 月 26-27 日, 小児歯誌, 43 (2), 248 頁, 2005.
- 12) 木島 寛, 真貝富夫, 高橋義弘, 梶井友佳, 福島伸一, 田口 洋, 山田好秋, 野田 忠: 反射性嚥下誘発における一酸化窒素 (NO) の重要性 . 平成 17 年度新潟歯学会第 1 回例会, 新潟, 2005 年 7 月 9 日, 新潟歯学会誌, 35 (2), 247 頁, 2005 .
- 13) 八木和子, 松山順子, 三富智恵, 田口 洋, 野田 忠: 一口量と食塊粒子に関する研究 - 小児と成人の比較 - . 平成 17 年度新潟歯学会第 1 回例会, 新潟, 2005 年 7 月 9 日, 新潟歯学会誌, 35 (2), 250 頁, 2005 .

- 14) 杉村篤徳, 木下承子, 田口 洋, 野田 忠: ジュニアサッカースクールに所属する小児と保護者への歯の外傷およびマウスガードに冠するアンケート調査. 第16回日本スポーツ歯科医学会学術大会および総会, 岐阜, 2005年7月17日.
- 15) 沼奈津子, 石田陽子, 那須真樹子, 野田 忠, 織田公光: 突然変異型アルカリホスファターゼ(Val406Ala)の細胞生物学的解析, 第47回歯科基礎医学会学術大会, 仙台, 2005年9月29-30日.
- 16) 川岸恵理子, 大島邦子, 野村修一, 大島勇人: 高齢ラット臼歯窩洞形成後の歯髄反応. 第114回日本補綴歯科学会学術大会, 新潟, 2005年10月1-2日, 日本補綴歯科学会雑誌, 49 (Special Issue), 183頁, 2005.
- 17) 飯澤二葉子, 大島邦子, 野田 忠: 両側下顎第二大臼歯部に認められた過剰歯の一例. 第23回日本小児歯科学会北日本地方会大会および総会, 盛岡, 2005年10月29日, 小児歯誌 44 (1), 印刷中, 2006.
- 18) 川岸恵理子, 大島邦子, 野村修一, 大島勇人: 高齢ラット臼歯窩洞形成後の歯髄反応. 平成17年度新潟歯学会第2回例会, 新潟, 2005年11月5日, 新潟歯学会誌, 35 (2), 258頁, 2005.
- 19) 沼奈津子, 石田陽子, 那須真樹子, 野田 忠, 織田公光: 低ホスファターゼ症患者で報告された変異型組織非特異型アルカリホスファターゼ V406Aの解析, 平成17年度新潟歯学会第2回例会, 新潟, 2005年11月5日, 新潟歯学会誌, 35 (2), 262頁, 2005.
- 20) 坂井 淳, 林・坂井幸子, 野田 忠, 甲田文一, 坂本 信,: ビッカーズ硬さ試験を用いた乳歯の横断平面内硬度分布, 日本実験力学会2006年度年次講演会, 名古屋, 2006年3月13-15日, 日本実験力学会講演論文集2006年度年次講演会 No.6: 163-164, 2006.
- Gコード科目・新潟発「食べる」, 新潟, 2005年7月29日.
- 6) 田口 洋: 乳歯のむし歯の悪影響と予防. 新潟大学医歯学総合病院口蓋裂診療班母親教室, 新潟, 2005年10月18日.
- 7) 野田 忠: 子どもの歯・口. 日本事情自然系B, 新潟, 2005年11月30日.
- 8) 大島邦子: 知的障害者の歯科への適応. 平成17年度歯科臨床研修医セミナー, 新潟, 2005年12月7日.

顎顔面放射線学分野

【論文】

- 1) Orhan K, Nishiyama H, Tadashi S, Shumei M, Furukawa S: MR of 2270 TMJs prevalence of radiographic presence of otomastoiditis in temporomandibular joint disorders. Eur J Radiol. 55(1): 102-107, 2005.
- 2) Kakimoto N, Tanimoto K, Nishiyama H, Murakami S, Furukawa S, Kreiborg S: CT and MR imaging features of oral and maxillofacial hemangioma and vascular malformation. Eur J Radiol. 55(1): 108-112, 2005.
- 3) Katsura K, Hayashi T: Non-neoplastic process after neck dissection demonstrated on enhanced CT in patients with head and neck cancer. Dentomaxillofac Radiol. 34(5): 297-303, 2005.
- 4) Yamada K, Hanada K, Hayashi T: Double contours and craniofacial morphology. Cranio. 23(2): 144-151, 2005.
- 5) Estomaguio GA, Yamada K, Ochi K, Hayashi T, Hanada K: Craniofacial morphology and inclination of the posterior slope of the articular eminence in female patients with and without condylar bone change. Cranio. 23(4): 1-7, 2005.
- 6) Tanaka R, Hayashi T, Takagi R, Maruyama S, Cheng J: Calcifying odontogenic cyst with aggressive regrowth repeated: A case report with CT and MR findings. Proceedings of the 5th Congress of the International College for Maxillo-Facial-Surgery, 66-67, 2005.
- 7) 山崎幸一, 寺田真人, 中村順一, 中川公貴, 川原のぞみ, 松原大樹, 森田修一, 齊藤 力, 高木律男, 林 孝文, 齋藤 功: 顔面非対称を伴う骨格性下顎前突症患者における顎矯正手術前後の硬組織変化に対する軟組織変化の三次元分析. 日顎変形誌, 15 (2): 87-94, 2005年.
- 8) 佐藤しづ子, 笹野高嗣, 齋藤美紀子, 示野陽一, 大場麻美, 阪本真弥, 相澤一夫, 渡辺 誠: 高齢者の
- 1) 野田 忠: 新潟発『食べる』. 平成17年度Gコード科目・新潟発「食べる」, 新潟, 2005年4月15日.
- 2) 大島邦子: 食べることと口の健康. 平成17年度Gコード科目・新潟発「食べる」, 新潟, 2005年5月13日.
- 3) 田口 洋: 小児の口腔管理と治療・保護者への対応. 平成16年度歯科臨床研修医セミナー, 新潟, 2005年6月29日.
- 4) 田口 洋: 哺乳, 離乳, そして「食べる」へ. 平成17年度Gコード科目・新潟発「食べる」, 新潟, 2005年7月8日.
- 5) 野田 忠: 新潟発『食べる』まとめ. 平成17年度